

大阪医科大学学報

第55号 平成15年2月
(インターネット版)



目次

現況報告と今後の展開	2
規程関係	5
寄付金	8
学位記授与	9
助成金の決定について	9
田中耕一氏との論文共著	10
センター紹介	12
平成14年度市民公開講座	14
受賞	14
学内行事	15
会議・行事予定	16
保健管理室からのお知らせ	19
俳句	22

現況報告と今後の展開

はじめに

昭和2年に開校した本学は平成19年に創立80周年を迎えます。現在、いわゆる「聖域なき改革」が進みつつあり、国民を挙げての議論を行いながらさまざまな改革が試みられているところであります。この厳しい社会状況の中で、法人は創立70周年事業を完結し、来るべき創立80周年事業に取り組まなければなりません。教職員、卒業生をはじめ多くの方々から法人の事業運営にさまざまなご意見、ご高配を賜り感謝申し上げます。

皆様から頂いたご高配に応えるために、本学を最優の私立医育機関とし、地域医療・福祉に貢献する大学・病院となるよう、微力ながら日々努力している次第であります。

ここで、「記念事業の現況と今後の展開」についてご報告いたします。

創立70周年記念事業と法人の現況

本学は平成9年に創立70周年を迎えました。その記念事業の一環として、本学の歴史を顕彰し新たな発展を期して「大阪医科大学70年史」を編纂しました。また、経営専門委員会（中長期計画策定委員会）による全学的なアンケート調査を行い、全教職員の意見を集約・検討した結果に基づいて「中期5カ年経営計画（Challenge and Speedy 21）」を策定、教育・研究・診療・財政・総合項目にわたる経営計画の作成を行い、それぞれの担当部門で順次遂行しております。

施設関係では、本学北側に隣接するJR保有地（現本部北キャンパス）、高槻YMCA土地・建物（現本部北西キャンパス）の購入を行い、多様化する医学教育に対応すべく、さわらぎキャンパスの本部キャンパス等への移転を、平成14年9月に完了いたしました。

法人は旧図書館・医局棟跡地に、創立70周年記念事業の最終目標である病院7号館の建築を予定しています。病院7号館建築につきましては、経営の健全化、医療環境のめまぐるしい変化等により、当初の計画から建築開始が大幅に遅れ、教職員、卒業生等関係者の方々にご心配をおかけいたしております。

病院7号館の建築は、限られた予算の中での大阪医科大学の将来をかけた大きな建築プロジェクトであり、社会情勢を踏まえこれまでの建築計画とは異なり、広く教職員の意見を聴いて慎重に計画を進めてまいりました。当初の予定からは遅れましたが、できるだけ早期に着工させる予定であります。

法人を取り巻く環境は、「聖域なき改革」の中で、卒前・卒後の医学教育改革や医療・介護制度改革が急ピッチで進んでおり、法人はこれらに対応するために株式会社「西泉」を設立し、周辺土地の取得やそれに伴うさわらぎキャンパス統合など、その必要性和内容

が明確な部分については積極的な事業を展開してまいりました。また、現有建物の老朽化に伴い、新規及び跡地の整備計画が必要であり、差し迫る課題となっております。

教学面ではコアカリキュラムの導入、教育期間の短縮を伴う卒業試験の前倒し、教養教育の見直しなどがあり、その改革の内容は未だ明らかではありません。また、診療面では本年度の医療保険制度改革に引き続き、平成15年度の入院包括評価の導入、平成16年度の臨床研修必修化などが実施される予定で、新しい医療・介護制度の詳細な内容がその姿をあらわすには今しばらく時間がかかる模様であります。前述のとおり、病院7号館とそれに伴う病院の跡地運用が病棟再編等と合わせて、今後の医療収入に大きく影響を与えると考えております。

本学の財政収入の73%は医療収入であることから、医療制度改革の行く末を十分に把握し、財政基盤を確立して病院等の施設整備計画を立てていかなければなりません。それを実行・実現させることができなければ、現状の施設設備はやがて陳腐化し、最終的には現有財産を食い潰して、大学存亡の危機を迎えることになるやもしれません。それは例外のない近未来の現実であります。

創立80周年記念事業について

法人は創立80周年事業として、中央資料館（旧京大化学研究所）を解体し、その跡地に新講義棟（仮称PA会館）を、本部北キャンパスに看護専門学校々舎、住友重機社員寮跡地（高槻市北園町）などの病院用地の取得等を計画しております。法人は将来に必要性が求められる内容が明確なプロジェクトについては優先的に推進し、その他については必要性和内容が明確になった時点で積極的に推し進めるよう心がけております。



ところで、新規の建物の建築にあたり容積率などの関係法令に従い、老朽化した建物の解体を不可避のこととして進めてまいりました。創立当時の建物もその例外でなく、昭和5年にこの地に建てられたウィリアム・メレル・ヴォーリズの設計になる本館・解剖館・附属病院本館もすでにその機能を終え、次代の建物に替わりました。

大正から昭和にかけてヴォーリズは多くの教育機関や教会などの建物を設計しています。本学の建物はそれらの多くとは異なるサラセン様式とよばれる独特の設計で歴史的価値が高いと評価されていますが、現在では旧「別館」を残すのみとなりました。この建物

現況報告と今後の展開

は70余年間、本学の医学・看護学教育に供されてきたと共に、高槻市民のランドマークとして親しまれてきたものであります。このたび、高槻市と大阪府の推薦を得て、この旧「別館」が登録文化財として文化庁に申請されました。許可されれば、高槻市では初めての登録文化財となります。歴史的価値の高いこの建物を残すことは私たちに課せられた社会的使命ととらえ、旧「別館」に市民開放型の大阪医科大学歴史資料館を置き、この建物を保存することを決定いたしました。

歴史資料館の設置は他の建物計画と共に、創立80周年記念事業の一環と位置付けております。

方針とお願い

以上、現況と今後の展開について簡単にご報告いたしました。本学を取り巻く環境は非常に厳しく、80周年記念事業の遂行と病院建替えプロジェクト工事を実施していくためには継続した建築資金積立と外部資金（基金等）の導入を図る必要があります。

法人はそれらを実施し、これまで体験したことのない環境変化に対応するため、経営の根幹である財政の健全化の維持と、それを支える全体の体質改善を行っていく予定であります。

平成15年度からは、物流センターが稼動し、教員を除く職員に対し人事考課制度の実施に伴う給与体系改定も予定されています。さらに、関連会社(株)西泉の経営拡大による本学への一層の財政寄与が期待されます。

混迷を極める社会情勢の中で、教職員、学生およびその関係者が希望をもって勤務し学ぶことができる、地域社会に貢献できる医科大学・病院として、本学はより発展していかなければなりません。

歴史ある大阪医科大学の一員としてすべての者が一丸となり、それらの目標に向かって努力していく必要があります。

法人は創立70周年記念事業を完遂させ、創立80周年記念事業さらには創立90周年・100周年記念事業へと将来に繋いでまいりますので、教職員、関係者の皆様のご理解とご支援をお願いする次第です。

そのためにも開かれた経営を目標に、今後情報開示を行っていく予定であります。

皆様のご理解とご協力を、切にお願い申し上げます。

平成15年2月

理事長 田 中 忠 彌

規程関係

規程制定

規程が次のとおり制定されました。

学校法人大阪医科大学人事考課規程

(目的)

第1条 人事考課は、職員に対する公正な評価を行うことにより、能力の向上とその発揮による職員の活力を高め、意欲ある人材の育成に資すると共に、その処遇ならびに配置等に対し、公正な基準を設定することを目的とする。

(対象)

第2条 人事考課（以下考課という）は、当面教育職員を除く職員（以下職員という）に適用する。

(考課の種別と適用区分)

第3条 考課は、その内容により次の各号に種別する。

- 一 職務に対する目標と成果、および取組姿勢を評価する「目標管理」
- 二 職務遂行にかかる基本能力を把握評価する「能力考課」
- 三 目標管理と能力考課の要素を抽出し簡素化した「自己申告表」
- 四 職務の内容・特性に応じ必要な要素を抽出した「自己評価表」
- 五 部署内部管理

第4条 種別の適用区分は次の各号による。

- 一 原則、目標管理および能力考課を適用する。
 - 二 定型または受身の内容が多い職務、配置が単独もしくは少数の職務に従事している職員は、自己申告表を適用して差し支えない。
 - 三 看護師職務（看護専門学校専任教員を含む）に従事する役職者は自己評価表を適用して差し支えない。
 - 四 看護部所属の役職についていない看護師、准看護師、看護助手、保育士等は看護部の内部管理をもってこれを代用して差し支えない。
- 2 種別の適用の詳細は総務部人事課が定める。

(考課の時期および対象期間)

第5条 考課の時期および対象期間は次の各号による。

- 一 目標管理は、年2回、原則6月から11月を対象として12月に、12月から翌年5月を対象にして6月に行う。
- 二 能力考課は、年1回、原則9月に行う。
- 三 自己申告表は、年1回、原則9月に行う。
- 四 自己評価表は、年1回、原則4月に行う。
- 五 部署内部管理は適宜行う。
- 六 出張、出向、産休、病欠、欠勤等により、対象期間の過半を勤務していない者は、当該時期の考課の対象としない。

規程関係

(評定および評定者)

第6条 評定は、原則として1次評定および2次評定を行う。ただし、組織上該当事者がいない場合はこの限りではない。

- 2 自己申告表および自己評価表については、閲覧をもって評定に替える事ができる。
- 3 評定者は、役職者以上であって、原則被評定者の直系または関連の上司とする。
- 4 評定者は、公平、公正な評価を行うように努めるとともに、評定能力の向上を図る教育を受けなければならない。
- 5 評定者の詳細は、総務部人事課が定める。

(考課の実施要領)

第7条 考課の実施は、総務部人事課が定めた手引き等に基づいて行う。

(考課結果)

第8条 考課の結果は、1次評定者が面接で被評定者に示す場合を除き、原則公表しない。

第9条 考課の結果は、給与、賞与、昇給、昇格、配置、異動、教育、研修、その他人事関係の資料として活用する。

(考課表の保存)

第10条 考課後の各考課表は、総務部人事課において保存し、保存期間は当面5年間とする。

第11条 この規程の改廃は、理事会の承認により行う。

附 則 この規程は、平成14年12月1日から施行する。

規程改正

学則等が次のとおり改正されました。

大阪医科大学大学院学則（関係条文新旧対照表）

新	旧
第23条の3 医学研究科の授業料は年額 20万円 、実習料は年額 10万円 とする。	第23条の3 医学研究科の授業料は年額 60万円 、実習料は年額 20万円 とする。
附則 この改正は、平成15年4月1日から施行する。 ただし、第23条の3の規定は、平成15年度の入学者選抜試験から適用する。平成14年度以前から在学する者についても改正後の第23条の3の規定を適用する。	

大阪医科大学研究生に関する内規（関係条文新旧対照表）

新	旧
<p>第九条 研究生は手続料6万円、授業料年額金60万円を納付するものとする。（大阪医科大学主関連病院並びに主関連診療科に関する規則と大阪医科大学附属病院関連病院に関する規程による出向医については、手続料6万円を免除、授業料は年額45万円とする。）但し、更新継続の場合には手続料を要しない。</p>	<p>第九条 研究生は手続料6万円、授業料年額金30万円を納付するものとする。但し、更新継続の場合には手続料を要しない。</p>
<p>附則 この改正は平成15年4月1日から施行する。</p>	

人事関係

理事長指針が次のとおり定められました。

人事における待遇制度の実施について（平成14年12月 理事長指針）

1. 課長以上の職制にかかる昇格のための能力評価を行うことを目的に、同等の職責を与える「待遇」制度を設ける。
2. 「待遇」の委嘱期間は、1年以内とする。
委嘱期間は、理事長の判断で1年ごとに更新することができる。
3. 職制における「待遇」委嘱者には、理事長が該当する業務の範囲内において、待遇相当職の権限の一部または全部を委譲することができる。
4. 委嘱期間が満了し、その職責を期待どおり務めた「待遇」者は該当職位に昇格させる。
なお、期待どおりの職責を務めることができなかった場合は、委嘱前の職位に戻るものとする。
5. 「待遇」委嘱者の職位、給与は現職の範囲内とする。
6. 「待遇」制度は、契約職員及び派遣者にも適用することができる。
なお、この場合の委嘱期間は理事長が定めるものとし、4の規定は適用しない。
7. 本制度の実施は、昇格対象者の中から適時行うものとする。

お詫びと訂正

学報52号の記事に一部誤りがありましたので、お詫びし訂正致します。

P.12、大阪医科大学学則の改正について（関係条文新旧対照表）第36条、（第2学年次以降）、第1期納入期限、「1月15日」は新旧ともに「4月15日」の誤りでした。

寄付金

記念継続事業（新病棟建設）に係る寄付金の応募状況について

区分	項目	寄 付 金	
		件数	総額（円）
会社等（個人・一般含む）		85	69,271,840
仁泉会会員（大阪医科大学卒業生）		101	23,310,000
白友会会員（看護専門学校卒業生）		51	2,748,000
学生保護者		13	3,700,000
本法人役員・評議員		15	6,165,500
教職員（名誉教授・教職員OB含む）		1,544	21,085,000
計		1,809	126,280,340

平成15年1月15日現在

寄付金申込者

平成14年10月1日から平成15年1月15日までの間に寄付金申込者は、739件、金額8,510,000円です。ここに寄付金申込をいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

（順不同・敬称略）

会社等（個人・一般含む） 2件 金額150,000円

寄付者 代表者
有限会社すばる印刷 代表取締役 野村 昌男
炭 美智子

仁泉会会員 1件 金額300,000円

中山 孝

学生保護者 2件 金額500,000円

榎林 尚 辻 俊三

本法人役員・評議員 1件 金額100,000円

國澤 隆雄

教職員 733件、金額7,460,000円

大槻 哲彦、尾山 力、
看護部 神谷美佐子 他730名

寄付金募集についてのお願い

記念継続事業（新病棟（7号館）の建設）を本年3月から着工予定しております。完成後は、教育・研究・診療の水準を格段に向上させると共に、地域医療の基幹病院としての役割を更に強固にするものであります。

この事業には、多額の建設資金を必要とし、その資金確保には、全学挙げて努力しておりますが、本学のおかれている現状では、学生の保護者、仁泉会会員（本学卒業生）、白友会会員（看護専門学校卒業生）、本学関係者はもとより各界、各位に、広くご支援を仰がなければならないのが実情であります。

つきましては、現下厳しい経済情勢の折、何卒本学の意をお汲みとり戴き、格別のご支援を賜わりますよう伏して、お願い申し上げます。

募金目標額：10億円

募 金 期 間：個人（特定公益増進法人寄付金）
法人（ " " ） } 平成14年1月1日～平成18年12月31日

法人（受配者指定寄付金）「受配者指定寄付金」の受入承認後から2年間

寄 付 金 額：個人1口1万円としておりますが、できるだけ多数口のご協力をお願いします。

法人1口10万円としておりますが、できるだけ多数口のご協力をお願いします。

当寄付金に対しましては、所得税または、法人税の減免措置が受けられます。

募金に関する問い合わせ先：

大阪医科大学募金推進室

TEL 072-684-6344（直通）

学位記授与 助成金の決定について

平成14年度（第 回）学位記授与

平成14年度第 回学位審査には、大学院医学研究科修了による者および論文提出による者の申請があり所定の審査が行われました。

その結果、平成14年12月4日をもって9名が合格し、12月5日（木）午後2時から第2会議室において学位記授与式が行われました。

番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第643号	横田 淳司	Nerve conduction and microanatomy in the rabbit sciatic nerve after gradual limb lengthening-distraction neuro-genesis (家兔大腿骨緩徐延長モデルにおける坐骨神経の電気生理学的、組織学的検討)
甲第644号	中原 健一	Left Ventricular Mechanical Unloading Restores Beta-2 Adrenergic Receptor mRNA Expression and Decreases Susceptibility to Ischemia and Reperfusion in the Failing Heart (左室 mechanical unloading は、不全心の B2AR mRNA の発現を回復させ、虚血耐性を改善する)
甲第645号	森本 高広	Apoptosis and Cell Proliferation of Small Intestinal Villi in Mitomycin C-Treated Rats (マイトマイシンC投与ラットにおける小腸絨毛細胞のアポトーシスと増殖能について)
甲第646号	島川 修一	Neuropilin-2 is overexpressed in the rat brain after limbic seizures (ラット辺縁系けいれんモデルの脳におけるニューロピリン - 2 の過剰発現について)
乙第936号	山本 哲久	Downregulation of survivin expression by induction of the effector cell protease receptor-1 reduces tumor growth potential and results in an increased sensitivity to anticancer agents in human colon cancer (ヒト大腸癌細胞株において Effector Cell Protease Receptor-1 誘導による survivin 蛋白発現減弱は腫瘍増殖を抑制し、制癌剤に対する感受性を増強させる)
乙第937号	北小路博司	人体皮膚広帯域アドミッタンス分析
乙第938号	星島 秀昭	Effects of nitric oxide synthase inhibitor on cochlear blood flow (蝸牛血流における一酸化窒素合成阻害剤の効果)
乙第939号	坂口 仁志	Chymase and angiotensin converting enzyme activities in a hamster model of glaucoma filtering surgery (ハムスター緑内障濾過手術モデルにおけるキマーゼ活性及びアンジオテンシン変換酵素活性の定量)
乙第940号	橋本 隆彦	Elevated levels of intracellular Ca ²⁺ and apoptosis in human lung cancer cells given heat-shock (温熱処理したヒト肺癌細胞における細胞内カルシウム濃度の上昇とアポトーシスについて)

学術奨励金等 採択課題（1件）

平成14年度（第13回）財団法人 臨床薬理研究振興財団 研究助成金 [(財)臨床薬理研究振興財団]

研 究 課 題	所 属 ・ 職 ・ 氏 名	助 成 金 額
大動脈瘤進展におけるアンジオテンシンの病態生理学的役割	薬 理 学 教 室 助 教 授 ・ 高 井 真 司	100万円

ノーベル化学賞・田中耕一さんとの共著論文

清水 章

「質量分析」が田中耕一さんのノーベル化学賞受賞のニュースとともに、大変有名になりました。私たちは、質量分析を用いて、「蛋白質構造と疾患」の問題にずっと取り組んでおり、その出発点で、1994年に田中さんとの共著論文を国際誌に発表しました。試料の調製の仕方とイオン化を強くするために加えたマトリックス（支持物質）の2点で、当時としては画期的であったと思っています。その後、教室では、質量分析による異常ヘモグロビンの検出と構造決定の手法を確立し、臨床検査として学内はもちろん全国各地からの依頼に応じて分析しています。さらに、いろいろの血液蛋白質変異の診断にひろげ、アミロイド・シス、筋萎縮性側索硬化症、モリブデン補因子欠損症、ホモシスチン尿症などの臨床診断に寄与しています。また私たちは、アミノ酸変異とは別に、これまでの報告にない新たな蛋白質の修飾構造を明らかにしました。これは質量分析以外の方法では見つかることのない構造であり、この構造は重要な生命現象に関係していると予想しています。

共著論文の内容は、目的蛋白質に対する抗血清を検体と混ぜ、生じた抗原抗体結合物をそのまま分析するという簡単なものであり、再現性はよく、やって見れば誰にでもできるのですが、当時はそんな混合物が分析できるとは誰も考えなかったのです。もうひとつのポイントは試料に混ぜるマトリックスの選択であり、田中さんは試料にコバルトを混ぜて蛋白質が測定できることを1987年に発表して、その15年後にノーベル賞を受賞したのですが、1993年当時でも、なにを混ぜるかが、分析の成否を分けていました。

・シアノ・4・ヒドロキシケイ皮酸を混ぜると分析対象のトランスフェリンは複数箇所イオン化され、分析の精度が上がることを田中さんが示してくれました。3価のトランスフェリンにすると糖鎖のついている分子とついていない分

子ははっきりと区別できたのです。これによって、糖蛋白質鎖欠損症を診断できることを示しました。この内容の私の講演を聞いた島津製作所の研究者の一人が、「コロブスの卵ですね」と言って評価してくれました。その論文にイオン化原理の根拠として引用した田中さんの論文が今回のノーベル賞の対象になったのです。今、内外の多くの研究者がこの免疫沈降法を用いています。



於：京都国際会議場、国際臨床化学会バンケットにて。
葉事日報社 船窪 整 記者撮影2002年10月23日。
右：国際臨床化学会組織委員長の宮井潔 阪大名誉教授、
中央：田中耕一さん、左：筆者

蛋白質の質量分析は多くの研究者が使っていますが、病気診断に役立てているグループはまだ多くありません。田中さんのことに関連していくつかの新聞とNHKテレビの取材があり、取材の動機は「大阪医大では医療に実際に役立てていると聞いたので。」というものでした。NHKは数回にわたって、クローズアップ関西やニュースでとりあげ、本学の研究棟全貌を映した後、質量分析の医学応用への田中さんの強い関心を示す一例として、私たちの試料を田中さんが分析したことを紹介し、共著論文の掲載されている雑誌を私が広げて見せるところを放映しました。田中さんによせた私のコメントが良かったとほめてくださる恩師や知人の方が多く、

うれしく思っています。この正月休みに、インターネットでイギリスの新聞ガーディアン（2002年11月1日発行）に次のような記事を見つけました。「一億二千六百万人の日本国民が、突然、質量分析とニュートリノ観測に魅了された。田中人気はポップスター並であり、これは田中の人柄に加えて、科学の面で国際的に認められたいという日本の熱望によるものだ。ノーベル賞が普通の隣人に与えられる。次はあなたかもしれない。田中現象（Tanaka Phenomenon）はそのようなメッセージになり、これが日本の科学者と技術者を勇気づけた。50年間に30件のノーベル賞を目標に始まった日本政府の科学政策よりはるかに効果的であった。」

ドイツのヒレンキャンプさんらが、1987年、日本での田中さんの学会発表を伝え聞いて、この方法を発展させ、そちらのほうが有名であったと報じられており、私もその通りだと思っています。その研究室でPhDの仕事をした若いドイツ人学者のインゲンドーさんとも私たちには共著の論文があります（1995年）。永平寺に案内したこともあり、その仲の良い友人から2002年12月10日（受賞式の日）メールが届きました。「Dr.

ヒレンキャンプらはノーベル賞委員会の決定に驚いていることは確かです。しかし田中の名前はレーザー脱離の発展に際して、いつも注目されていました。我々は今回質量分析に賞が与えられたことに感謝しています。」行間には「これから自分もがんばる。」と読み取れました。田中さんの受賞は、研究者みんなを励ましました。日本の若い多くの研究者の間に、「何年か先の受賞者は自分かもしれない。すぐれた研究をしよう。論文を書こう。学会発表だって、英語できっちりやろう。」そういう意気込みが沸き起こっています。（謝辞）研究は、病態検査 中西豊文講師、宮崎彩子講師はじめ、病態検査、中央検査部の職員、および、学内外から共同研究員として参加されている数人の大学院生によります。記して感謝の意を表すると共に、今後の更なる発展を祈ります。また質量分析機設置にご尽力、お力添えいただいた、歴代学長、理事会、教授会、機器センター長と職員の方々に厚くお礼申し上げます。

しみず・あきら 病態検査学教授・中央検査部部長・医療情報部部長・図書館長

センター紹介

消化器内視鏡センター

消化器内視鏡センター長
平田一郎



「消化器内視鏡センター」開設までの経緯

当院における消化器内視鏡検査の歴史は古く、昭和34年に第2内科で始められ現在に至っています。筆者が消化器内視鏡検査に携わるようになった昭和52年頃は、検査室は旧産科病棟の跡地に設けられていましたが、その建物も取り壊されて今はありません。内視鏡検査室が1号館の現在の場所に移転したのは昭和57年で、ほぼ同じ頃に当検査室は日本消化器内視鏡学会より消化器内視鏡指導施設に認定されています。移転当時はそれ程不自由が感じられなかった検査室も、検査内容と件数の急速な増加によってスタッフ不足、スペース不足、機器などの設備不足が慢性的に生じ、ここ数年来悩まされ続けています。特に、検査機器の消毒を含め安全で快適な検査を患者さんに受けていただくには設備面での早急な改善が望まれるため、財政難の折、心苦しさを感じつつも毎年要望書を提出してい

ます。このような状況下ですが、法人、教授会ならびに教職員各位のご配慮とご理解により昨年6月に「消化器内視鏡センター」が開設の運びとなりました。“センター開設”はより良き消化器内視鏡診療に向けた前進に繋がるもので誠に喜ばしい事です。

「消化器内視鏡センター」の概要

当面の間、従来の内視鏡検査室(図1)にて業務が行われます。総面積は161.4㎡とやや手狭です。現在、スタッフは医師がセンター長(兼任)と副センター長(梅垣)(兼任)の2名、看護師(武隈、浜地、高橋)3名、技術職員(内視鏡検査技師)(津田、山口)2名、事務受付および機器洗浄係(パート職員)のべ2名です。また、本センターの運営を円滑に図るため、医師とco-medicalスタッフによるセンター運営委員会が設けられています。センターの週間診療

スケジュールは(表1)の如くで、第2内科、一般消化器外科と放射線科、小児科などから出向してくる医師の応援の下に業務が行われています。また、夜間を含めルーチン枠外の緊急内視鏡検査も頻繁に行っています。昨年の検査件数は約7000件で、上部消化管内視鏡検査が4800件、下部消化管内視鏡検査が約1930件、ERCP(内視鏡的逆行性膵胆管造影検査)が約270件でした。このうち約1100件は内視鏡治療で、ポリープ切除、食道・胃・大腸癌に対する粘膜切除(EMR)食道静脈瘤治療、胆道系処置、消化管出血止血術などが行われています。

「消化器内視鏡センター」運営の展望

センター運営のコンセプトは「病変の早期発見、早期治療、早期回復を目標に特定機能病院にふさわしい安全で質の高い内視鏡診療の提供」です。このコンセプトの遂行と、内視鏡医育成という教育病院としての使命をうまく両立させ

ることは大きな課題の一つです。また、地域医療に貢献し、より多くの患者さんを紹介してもらえるよう病診連携を緊密にしていくことも重要です。現在、本センターの検査件数は全国の大学病院の中では上位ランクですが、設備は下位ランクで患者さんに快適で安全な検査を提供するにはかなり心許ない状況です。しかし、設備充実のためには収益向上も必要なので、現在よりも年間検査件数を増やしていくつもりです。当面は癌検診なども積極的に加えながら年間10,000件以上を目標にしています。また、収益の大きな内視鏡治療の比率を増加させることや、ポリペクトミーなどの内視鏡治療、侵襲性の強い検査(例:ERCP)に対して短期入院用ベッドを設け、ベッドの回転を早くして収益向上を図りたいと思います。最後に、他のどの施設にも負けない特色と実力を備えたセンターを目指して努力する所存です。本学の皆様方のご支援を何とぞよろしくお願いいたします。

図1 消化器内視鏡センター平面図

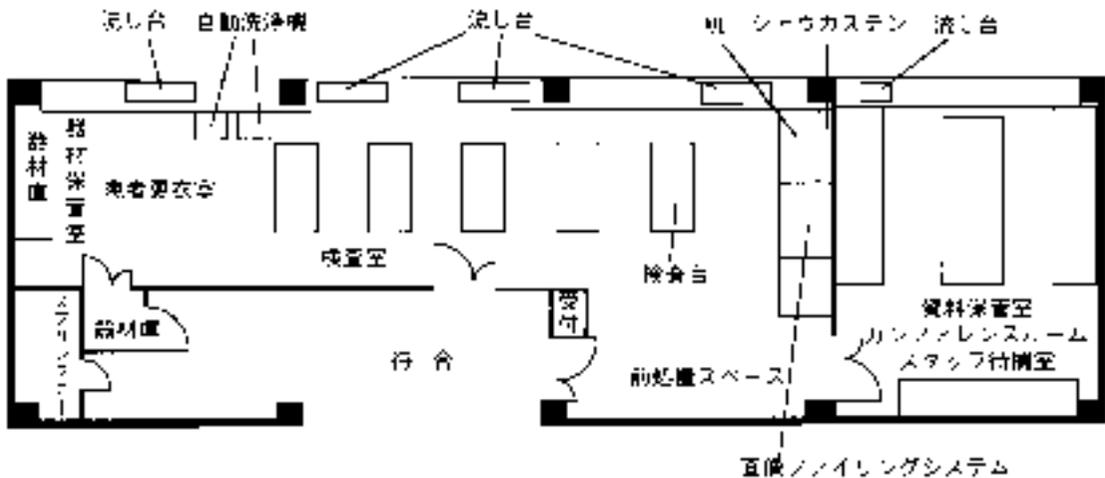


表1 消化器内視鏡センター診療スケジュール

	月	火	水	木	金	土
午前	上部内視鏡 超音波内視鏡 ERCP	上部内視鏡 治療内視鏡*	上部内視鏡 (含、人間ドック) ERCP	上部内視鏡 超音波内視鏡	上部内視鏡	上部内視鏡 (含、人間ドック) 時間外内視鏡
午後	下部内視鏡 治療内視鏡** ERCP	下部内視鏡 治療内視鏡**	下部内視鏡 超音波内視鏡 治療内視鏡** ERCP	下部内視鏡	下部内視鏡 治療内視鏡**	

緊急内視鏡(随時) * 胃粘膜切除術・食道静脈瘤硬化療法、** 大腸粘膜切除術

● 平成14年度 市民公開講座 ●

平成14年度市民公開講座が下記のとおり開催されました。

[第5回]

11月16日(土) 午後2時～

臨床第1講堂

『消化器癌はどこまで治るか』

講師 本学 一般・消化器外科
教授 谷川 允彦

『お薬について』

講師 附属病院薬剤部



[第6回]

12月21日(土) 午後2時～

臨床第1講堂

『“なぜ歯を磨く”』

むし歯・歯槽膿漏症との闘い』

講師 本学 歯科口腔外科

教授 島原 政司

『お薬について』

講師 附属病院薬剤部



[第7回]

1月18日(土) 午後2時～

臨床第1講堂

『高齢者の骨折予防とリハビリテーション』

講師 本学 リハビリテーション科
助教授 山口 淳

『お薬について』

講師 附属病院薬剤部



国際臨床化学会議Excellent Poster賞受賞



2002年10月20日(日)～25日(金)に国立京都国際会館で行われた第18回国際臨床化学会議において、学術的に優秀な演題に贈られるExcellent Poster(優秀ポスター演題賞)を中央検査部の井口健主事が受賞されました。

演題名 “An improved reference method for HbA1c based on peptide analysis by ESI-mass spectrometry using synthetic peptides as deuterium-labeled internal standards and calibrators”

院内コンサート開催



本学グリークラブ、本学管弦楽同好会、高槻混声合唱団エスポワールの共催による院内コンサートが本院外来ホールにおいて11月3日（日）午後2時から開催されました。来聴者の心には、美しい音色が響いたことでしょう。

合同消防避難訓練実施



11月7日（木）午後2時から、高槻市中消防署と病院自衛消防隊の合同で夜間・休日体制における消防避難訓練が行われました。

当日は本院65病棟給湯室から出火したことを想定して、仮想患者による避難訓練、消防はしご車による救出訓練、救助袋による降下避難訓練等、火災発生時などの緊急時における患者様の生命と安全を守るための訓練が行われました。

年賀交歓会開催



恒例の年賀交歓会が、1月6日（月）午後1時から第9会議室において、理事長、学長、病院長をはじめ、教職員約100名が出席して開催されました。

平成14年度実験動物慰霊祭



平成14年度実験動物慰霊祭が、12月7日（土）午後1時から講義実習棟第1講義室において、たくさんの関係者および教職員の参列のもと執り行われました。

大阪医科大学関連病院長会総会



平成14年度大阪医科大学関連病院長会総会が、11月21日（木）午後3時から、たかつき京都ホテルにおいて、島田学長、阿部学生部長、植木病院長、竹中副院長はじめ各教授、各関連病院長ら関係者約100名の出席のもと開催されました。

総会では、島田学長の開会挨拶に続き、植木病院長の平成14年度経過報告他が行われた後、下記のとおり特別講演が行われました。

[特別講演]

『特定機能病院的包括医療について』

産業医科大学 公衆衛生学教室

教授 松田 晋哉

高槻予防接種センターの予防接種完全実施について



本学の協力により共同利用会館内に平成14年10月1日付で設置されました「厚生労働省大阪検疫所高槻予防接種センター」では、これまで黄熱病の予防接種のみが行われておりましたが、本年1月9日から破傷風・A型肝炎・狂犬病など8種の予防接種を行うことになり、正式に開所されました。

このたび、中野大阪検疫所長から國澤常務理事にその通知文書の伝達が行われました。「高槻予防接種センター」では、年間約800人程度の利用が見込まれております。

主な行事日程表

2月1日から4月30日までの学内における主要な行事予定は次のとおりです。

- 2月4日（火） 大学院医学研究科入学試験（5日まで）
- 5日（水） 教授会・大学院医学研究科委員会
- 13日（木） 医学部入学試験〔学科試験〕（於 関西大学）
- 18日（火） 理事会
- 21日（金） 臨時教授会
医学部学科試験合格者発表
- 23日（日） 第92回看護師国家試験
- 24日（月） 医学部入学試験〔面接・小論文〕
（学科試験合格者のみ）
- 25日（火） 教授会・大学院医学研究科委員会
医学部入試合格者発表
- 3月5日（水） 教授会・大学院医学研究科委員会
- 6日（木） 大学院医学研究科入試合格者発表
- 7日（金） 看護専門学校卒業式
- 8日（土） 第1・5学年春季休業
- 11日（火） 理事会
- 15日（土） 第97回医師国家試験（17日まで）

- 3月15日（土） 第2・3・4学年春季休業
- 19日（水） 教授会・大学院医学研究科委員会
- 24日（月） 医学部・大学院卒業証書・学位記授与式
- 27日（木） 第92回看護師国家試験発表
- 29日（土） 理事会・評議員会
- 4月2日（水） 臨時教授会
- 3日（木） 入学宣誓式（医学部・大学院）
- 4日（金） 新入生学外合宿（於 亀岡ハイツ）（6日まで）
- 7日（月） 第2・4学年オリエンテーション
第6学年ベッドサイド実習開始
- 8日（火） 第2・4学年授業開始
第1・3学年オリエンテーション
- 9日（水） 教授会・大学院医学研究科委員会
第5学年オリエンテーション
第1・3学年授業開始
看護専門学校入学式
- 10日（木） 第5学年ポリクリ実習・授業開始
- 15日（火） 理事会
- 23日（水） 教授会・大学院医学研究科委員会
- 24日（木） 第97回医師国家試験合格発表

主要会議とその主な議題

11月1日から1月31日までの主要な会議とその主な議題は次のとおりです。

【理事会】

(11月12日)

- 審議事項 -

1. 顧問の委嘱について
2. 大阪医科大学学則の一部改正について
3. 学校法人大阪医科大学担当理事会運営会議内規の制定について

- 報告事項 -

1. 施設計画事業本部報告
2. 経営専門委員会報告
3. その他(学事・病院関係報告)

(12月17日)

- 審議事項 -

1. 平成15年度予算編成について
2. 学校法人大阪医科大学人事考課規程の制定について
3. 学校法人大阪医科大学担当理事会運営会議内規の制定について
4. 自己取引について

- 報告事項 -

1. 平成14年度上半期収支状況報告
2. 日本私立医科大学協会理事会報告
3. 施設計画事業本部報告
4. 経営専門委員会報告
5. 新阿武山病院について
6. その他(学事・病院関係報告)

(1月21日)

- 審議事項 -

1. 学校法人大阪医科大学職務発明取扱規程の制定について
2. 看護専門学校々舎設計業者の選定について
3. 新講義実習棟(仮称)基本設計案について
4. 入学辞退者分学生生徒納付金(医学部)の返金について
5. 学生保護者からの寄付金募集制度の見直しについて
6. 学生生徒納付金(医学部)のスライド制度の見直しについて

- 報告事項 -

1. 施設計画事業本部報告
2. その他(学事・病院関係報告)

【教授会】

(11月6日)

1. 人事に関する件(講師の任用他)
2. 胸部外科学講座担当教授選考委員会委員の委嘱に関する件
3. その他
 - 1) 教育センター(仮称)の設立について
 - 2) 学科目と講座との再編委員会(仮称)委員の委嘱について
 - 3) 学校法人大阪医科大学職務発明取扱規程の制定について
 - 4) 消化器内視鏡センター副センター長の推薦について
 - 5) 外科系診療科制の導入について

(11月20日)

1. 人事に関する件(非常勤講師の任用他)
2. 胸部外科学講座担当教授選考に関する件
3. 大阪医科大学組換えDNA実験に関する安全管理規程の改正に関する件
4. その他
 - 1) 平成14年度奨学生(本学・仁泉会)の推薦について
 - 2) 第5学年法医学演習の評価を後期(卒業)試験で行うことについて
 - 3) 平成15年度入学試験当日の総監督並びに総監督補佐の委嘱について

(12月4日)

1. 人事に関する件(非常勤講師の任用他)
2. 学校法人大阪医科大学職務発明取扱規程の制定について
3. 大阪医科大学組換えDNA実験に関する安全管理規程の改正に関する件
4. その他
 - 1) 平成15年度授業時間割編成について
 - 2) 講座研究費の見直しについて

(12月18日)

1. 人事に関する件(招聘外国人学者の受入について他)
2. 次期学長予定者選挙に関する件

会 議

3. その他

- 1) 学長予定者選挙管理委員会委員の変更について
- 2) 胸部外科学講座担当教授選考委員会委員の変更について
- 3) 機器共同利用センター運営委員会委員の変更について
- 4) 共用試験（C B T）のサイトマネージャーの委嘱について
- 5) 受託研究契約について

（1月8日）

1. 人事に関する件（講師の任用他）
2. 第6学年卒業合否判定に関する件
3. 学長予定者選挙に関する件
4. 胸部外科学講座担当教授選考に関する件
5. その他
 - 1) 受託研究契約について
 - 2) 学長予定者選考規定改正委員会委員の変更について
 - 3) 学長辞任請求規定改正委員会委員の変更について
 - 4) 機器共同利用センター運営委員会委員の変更について
 - 5) 平成15年度学事行事予定の一部変更及び平成15年度臨床実習について

（1月22日）

1. 人事に関する件（講師の任用他）
2. 平成15年度入学試験（医学部）に関する件
3. その他
 - 1) 臨床教育教授及び臨床教育助教授の選出について
 - 2) 大阪医科大学学生褒賞について
 - 3) 各種委員会委員の変更について
 - 4) 機器共同利用センター運営委員会委員の変更について
 - 5) 平成14年度日本育英会緊急（第一種）・応急（きぼう21プラン）採用の推薦について

〔大学院医学研究科委員会〕

（11月20日）

1. 学外研修期間延長の願出に関する件
2. 平成14年度私費外国人留学生学習奨励費給付制度受給者の推薦に関する件

（12月4日）

1. 論文審査結果に関する件
2. 学生の退学願出に関する件
3. 研究生の願出に関する件
4. 出向医に係る研究生の取り扱いについて
5. 研究歴内規の取り扱いについて

（12月18日）

1. 専攻医の出向医兼研究生への身分変更に関する件
2. 研究生に関する内規の一部改正に関する件
3. その他

（1月8日）

1. ハイテク・リサーチ・センター運営委員会委員の変更について

（1月22日）

1. 学位乙の研究年限に関する件

保健管理室からのお知らせ

秋の定期健康診断を終えて

平成14年度の定期健康診断は、10月17日～11月1日の10日間を実施し、さらにこの期間内に受検できなかった方を対象に、“未受検者健診”として11月下旬に2日間の健診日を設けました。健診の中頃、未受検の方のお名前を所属責任者へ報告、各個人を追跡しご迷惑をおかけすることもありましたが、忙しい時間帯に各部署内で皆さん協力しあって健診に来られた様子で微笑ましく感じました。あわせて健診日数や健診時間帯の拡大、着衣下での胸部写真撮影が可能となったことなど、健診を受ける環境も少しずつ改善できているためか、これまで健診を受けておられなかった方の姿を拝見することもできました。

定期健康診断 部署別受検率

所属名	対象者数(人)	受検者数(人)	受検率
学 長 室	1	1	100.0%
法人企画室	3	3	100.0%
総務課	19	19	100.0%
人事課	8	8	100.0%
財務課	8	8	100.0%
管財用度課	12	12	100.0%
研究協力課	6	6	100.0%
募金推進室	2	2	100.0%
学務課	11	10	90.9%
図書	9	9	100.0%
英語	1	1	100.0%
独語	2	2	100.0%
哲学	1	1	100.0%
心理学	1	1	100.0%
物理	4	4	100.0%
化学	4	3	75.0%
生物	2	2	100.0%
数学	1	1	100.0%
解剖学	9	9	100.0%
解剖学	7	7	100.0%
生理学	5	5	100.0%
生理学	7	6	85.7%
医学	10	10	100.0%
薬理学	8	8	100.0%
病理学	10	10	100.0%
病理学	10	10	100.0%
微生物学	11	9	81.8%
法医学	8	8	100.0%
衛生学・公衆衛生学	16	14	87.5%
機器共同利用センター	6	6	100.0%
医学情報処理センター	1	1	100.0%
実験動物センター	7	7	100.0%
保健管理室	5	5	100.0%
内科学	85	83	97.6%
内科学	40	34	85.0%
内科学	28	16	57.1%
一般・消化器外科学	23	22	95.7%
胸部外科学	23	19	82.6%
脳神経外科学	27	19	70.4%
形成外科学	18	18	100.0%
整形外科学	44	38	86.4%
口腔外科学	38	34	89.5%
神経精神医学	46	34	73.9%
小児科学	31	30	96.8%
眼科学	45	43	95.6%
耳鼻咽喉科学	24	21	87.5%
皮膚科学	16	14	87.5%

所属名	対象者数(人)	受検者数(人)	受検率
泌尿器科学	18	17	94.4%
放射線医学	75	70	93.3%
産婦人科学	30	29	96.7%
麻酔科学	20	20	100.0%
中央検査部	61	61	100.0%
病院病理部	3	3	100.0%
病態検査学	5	5	100.0%
輸血室	9	9	100.0%
周産期センター	4	4	100.0%
リハビリテーション科	22	22	100.0%
I C U	3	3	100.0%
血液浄化センター	1	1	100.0%
中央手術室	1	1	100.0%
臨床工学室	6	6	100.0%
救急医療部	4	4	100.0%
エイズ調査室	1	1	100.0%
L Dセンター	3	3	100.0%
病院事務部	3	3	100.0%
病院サービス課	11	11	100.0%
医事課	56	56	100.0%
栄養給食課	56	56	100.0%
施設	21	21	100.0%
薬剤課	37	37	100.0%
内視鏡室	2	2	100.0%
医療情報部	6	6	100.0%
医療相談部	5	5	100.0%
臨床試験センター	4	4	100.0%
看護部	725	725	100.0%
看護専門学校	19	19	100.0%
委託・派遣	59	59	100.0%
総計	1973	1896	96.1%

職種別有所見率

職 種	受検者数(人)	有所見者数(人)					有所見率
		要経過観察	要精密検査	継続治療	計		
教 職	317	124	79	24	227	71.6%	
事務職	208	81	29	17	127	61.1%	
技術職	203	92	16	20	128	63.1%	
技能職	42	14	12	6	32	76.2%	
労務職	41	16	14	10	40	97.6%	
看護職	690	182	73	21	276	40.0%	
専任教員	14	5	2	2	9	64.3%	
研修医	124	20	2	0	22	17.7%	
専攻医・副手	87	14	9	1	24	27.6%	
大学院生	93	21	5	2	28	30.1%	
その他	77	23	16	2	41	53.2%	
計	1896	592	257	105	954	50.3%	

保健管理室からのお知らせ

年齢・項目別有所見率

年齢	受検者数	肝機能		脂質		貧血		血糖		尿酸	
		有所見者数	有所見率	有所見者数	有所見率	有所見者数	有所見率	有所見者数	有所見率	有所見者数	有所見率
25歳	111	2	1.8%	24	21.6%	14	12.6%	2	1.8%	3	2.7%
35歳	56	10	17.9%	26	46.4%	3	5.4%	5	8.9%	3	5.4%
40 - 49歳	316	78	24.7%	152	48.1%	37	11.7%	14	4.4%	14	4.4%
50 - 59歳	211	56	26.5%	137	64.9%	20	9.5%	27	12.8%	7	3.3%
60歳以上	80	21	26.3%	54	67.5%	5	6.3%	9	11.3%	7	8.8%
総計	824	183	22.2%	414	50.2%	79	9.6%	60	7.3%	34	4.1%

有機溶剤・特定化学物質健康診断を終えて

本健康診断は、有機溶剤・特定化学物質の従事者を対象に定期健康診断と併せて実施しました。調査票（問診票）の記入や検体の提出方法などお手順をおかけすることが多々あり、お詫び致します。本健診は年2回実施のため、次回健診の実施は5月末、調査票（問診票）配布は4月頃の予定です。

有機溶剤・特定化学物質健康診断 受検率（職種別）

職種	対象者(人)	受検者(人)	受検率
教職	43	42	97.7%
技術職	30	28	93.3%
技能職	10	10	100.0%
労務職	1	1	100.0%
大学院生	6	6	100.0%
その他	6	5	83.3%
総計	96	93	96.9%

食事についての相談を受け付けています

生活習慣病健診における有所見率は高く、なかでも脂質値に有所見が多く「高脂血症」と言われる人が増えています。高熱や咳が出る、おなかが痛いと言った自覚症状はなく、気づいたら重大な生活習慣病にかかっていたということになりかねません。職員の皆さんのひとりでも多くの方が、毎日の生活習慣を見直し変容できるよう、食事について個別相談を行っています。今後、機会を見つけて教室の開催を計画していきたいと考えています。個人的には随時受け付けていますので、保健管理室までお問い合わせ下さい。

健康診断期間中に『ストレスチェック』を行ないました

希望者を対象にストレスチェックを実施しました。希望者88名（男性9名、女性79名）中、43.2%（38名）がストレス度が高く生活満足感も低い“ストレス不応型”となりました。年齢別では、30歳代の56.0%が“ストレス不応型”となり、他の年齢群を大きく上回りました（図1）。

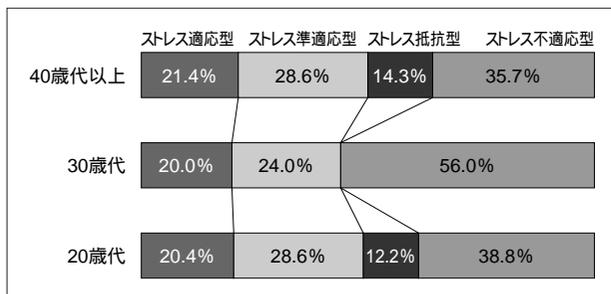


図1 ストレスチェックリストの年齢別結果

希望された方のみを実施しましたので、即座に今回の結果を受け入れることは出来ませんが、昨今、ストレスによる心身の不調を訴える人が増加し、職場のメンタルヘルスに関心が高まっており、本学も例外とは言えないでしょう。今後、心身の健康管理について積極的な活動を考えていきたいと思っております。

最後になりましたが、関連部門の皆様には長期間にわたりご協力を頂き感謝しています。有り難うございました。

平成15年度前半の事業案内

1. B型肝炎抗原抗体検査、HCV抗体検査

平成15年4月に実施予定です。

日時、場所などの詳細は3月に各部署に案内致します。申込み制となりますので、各部署に案内・申込み用紙が配られましたら、希望者は記入し保健管理室に提出して下さい。

なお、B型肝炎の予防接種（1回目）は6月上旬の予定です。

2. ツベルクリン反応検査

平成15年4月に実施予定です。

上記検査同様、詳細は3月に各部署に案内致します。本学にツベルクリン反応のデータが記録されていない方が対象となり、検査が必要な方には各個人宛てに案内致します。自分はどうなのかわからない方は、保健管理室までご連絡下さい。

3. 新研修医採用時健康診断

平成15年4月末の研修医オリエンテーション期間中に実施予定です。必ず新研修医が受検できるよう各部署内でのご協力をお願いします。

4. 医学生健康診断

平成15年5月7・8・9日

5. 看護学生健康診断

平成15年4月28日、6月5日

6. 特定業務従事者健康診断（*）

平成15年6月に実施予定です。

主に深夜業務に従事している職員を対象に実施します。対象者には事前に案内と個人票を配布します。

7. 有機溶剤・特定化学物質健康診断（*）

平成15年6月に実施予定です。

有機溶剤、特定化学物質を使用しているかどうか、4月末頃に調査票（問診票）を各部署に配布します。該当される方は必ず調査票（問診票）を提出して下さい。

8. 電離放射線従事者健康診断（*）

平成15年4月に実施予定です。

登録者全員に各部署まとめて被爆歴調査票（問診票）を配布します。必ず問診票を期日までに提出して下さい。法改正によりこの調査は年4回から2回に変更になりました。

（*）印の健康診断は、保健所の監査と労働基準監督署の報告をしておりますので宜しくお願いします。

大阪医科大学俳句会（九・十・十一月）

割烹着出来て百年栗御飯

塚本務人

海風に松みな傾ぐ秋のこゑ

同

丈の丈芒育てし詩仙堂

今井雄介

珈琲で話すませる夜寒かな

中川一成

立冬や細紐渡る地球独楽

梶野興三

焼林檎つばやき多き漢かな

梶野香代子

陸、陸とコロンブス叫ぶ秋灯下

吉田孝江

一皮を剥かれ頬染む茗荷の子

飯塚久子

夏をはる伝言板の文字を消し

美濃 眞

味噌漬の鯖を焦がして夜食かな

和田 明

燃えるもの燃えないものと捨て小春

山崎隆司

望郷の風となりたる秋の蝶

（投稿）宮脇芳美



投句のお誘い

一般の方も投句（何句でも）して下されば、
当句会で会員の出句と同じように選句します。
入選句は当欄に掲載します。

宛先は

〒569-8686 高槻市大学町2-7
大阪医科大学

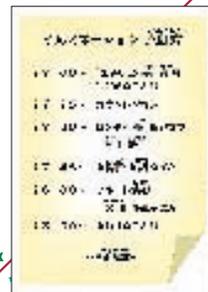
俳句会

皆様の参加をお待ちしております。



イルミネーション点灯式

12月5日(木)午後5時からLDセンターにて、イルミネーション点灯式が催されました。普段はセンターではりきって学習している子どもたちも、この日ばかりは歓声をあげて、輝く木々に見入っていました。当日は、サンタさんやトナカイさんも登場し「きよしこの夜」斉唱、フルーツ演奏、お菓子のプレゼントなどクリスマスらしいプログラムを楽しみました。たくさんのご家族、大学・病院関係者が一堂に会し、それぞれの思いを胸に有意義なひとときを過ごしました。



大阪医科大学学報 第55号
発行年月 平成15年2月
発行 学校法人 大阪医科大学
編集・発行 総務部
印刷 大日本印刷株式会社
大阪医科大学ホームページ
<http://www.osaka-med.ac.jp/>